

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】

■ 学校の共通目標

新宿区立柏木小学校

【HP公開用・様式1・令和7年11月14日】

授業作り	重点	他者と協働して考え、自分で判断し、その考えを表現できる主体者を育てる。
環境作り		3年生以上の教科担任制と、児童自身が学習コースを選択するコース別学習を行う。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		○最後まで相手の話をしっかり聞く。 ○口形を意識し、はっきりとした発音で話す。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて文を読む。 ○長音、拗音、促音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使う。 ○10までの数の合成・分解を理解する。 ○1位数と1位数の加法・減法ができ、生活の中で適切に使う。 ○加法・減法が用いられる場面を理解し、式に表す力を身に付け、生活の中で適切に使う。	①相手の目を見て話を聞くことの指導 ②音読練習の継続 ③マスや行などの形式の工夫や、視写 ④具体物や半具体物などの使用 ⑤お話作り（問題作り） ⑥視覚による文の主語・述語の関係の確認 ⑦文章に書かれている順序及び正しい表記方法の確認 ⑧タブレット端末による漢字の書き取り、計算問題の反復練習による習熟を図る
2 学 年		○最後まで集中して人の話を聞く。 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気づき、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○文の中の主語と述語の関係を理解する。 ○文字や言葉、漢字を正確に表記し、既習の漢字を文中で使うことができる。 ○3けたの数の繰り上がり、繰り下がりのある計算を正しくする。 ○長さや水のかさの単位を理解し、測定できる。 ○時間の単位を理解し、見通しをもって行動できる。 ○乗法九九を構成する式とその答えを覚えることができる。	①話の聞き方や聞く姿勢の継続的な指導 ②継続した音読練習 ③文の中における主語と述語の確認 ④日記やミニ作文等、既習漢字を適切に使った文章を書く機会の設定 ⑤読み聞かせや読書活動の充実 ⑥漢字の反復練習 ⑦プリントやタブレット端末での計算の反復練習 ⑧長さや水のかさの測定の時間の確保と、量の感覚の定着 ⑨生活の中での時刻や時間の感覚の定着 ⑩九九表の活用と、百マス計算による反復練習
3 学 年	・国語科では、新宿区学力定着度調査のすべての領域で約3ポイント区平均より上回っている。今後もすべての領域でバランスよく学力の高さを維持していく。	○思いや考えをもち、それを言葉や文にして伝えることができる。 ○主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示語や接続語の役割、段落の役割を理解する。 ○算数科の前学年までの知識・技能を使って問	①書くことや話すことによる自分の考えを伝える練習 ②国語辞典の活用 ③日記やミニ作文等、書くことの日常化

	・算数科では、新宿区学力定着度調査の「思考・判断・表現」の観点が区平均より8ポイント高いことから、授業では発展的な問題も取り入れながらさらに力を伸ばしていく。	題を解くことができる。 ○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。 ○解き方や考え方を伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得する。 ○自分の苦手な問題の克服し、自信をもって新しい問題に挑戦する。 ○友達の見方・考え方のよさを自分の学習に取り入れることができる。	④5W1Hや、文型を意識した書きかたの練習 ⑤九九や3桁の加減筆算の復習 ⑥水のかさや長さの測定の時間の確保 ⑦ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実 ⑧ペア学習や小集団活動の充実 ⑨毎時間の「ふりかえり」の実施 ⑩漢字・計算といった基礎・基本の学習の反復
4 学 年	・国語科では、新宿区学力定着度調査の「知識・技能」の観点で区平均より下回っており、漢字や基本的な文法など、基礎的な内容の定着が必要である。 ・算数科では、新宿区学力定着度調査の「図形」領域が区平均より下回っており、作図や具体物操作などの算数的活動を多く設ける必要がある。	○既習の漢字を文章の中で使うことができる。 ○主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示語や接続語の役割、段落の役割を理解する。 ○考えや感想を述べるための語彙を増やし、自己表現の幅を広げる。 ○算数科の前学年までの知識・技能を使って問題を解くことができる。 ○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。 ○解き方や考え方を伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得する。 ○自分の苦手な問題を克服し、自信をもって新しい問題に取り組む。	①言葉や表現について辞書やインターネットによる画像検索などを活用 ②表現による意味の変化を理解しているかなどを、児童の理解の様子などから見取り、適宜確認 ③加減剰余の反復練習 ④水のかさ、時間、長さ、重さ、面積等の測定の時間の確保 ④ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実 ⑤ペア学習や小集団活動の充実 ⑥毎時間の「ふりかえり」の実施 ⑦デジタルドリルや東京ベーシックドリルの活用 ⑧自分なりの課題解決の時間の確保
5 学 年	・国語科では、新宿区学力定着度調査の「読むこと」が区平均より6ポイント上回っていたが、「話すこと・聞くこと」については課題が見られた。 ・算数においても国語と同様に全体的には全国平均と差は見られないが、基礎的な学力の向上は全体として引き続き必要である。	○基礎的な問題に丁寧に取り組み、基礎的な学習を基に、学習に活用することができる。 ○思いや考えを文や言葉にし、それらを自ら表現することができる。 ○他者意識をもった話し合いができる。 ○思ったことや考えたことを伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得する。 ○既習の漢字を文章の中で使うことができる。 ○算数科の前学年までの知識・技能を使って問題を解くことができる。 ○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。 ○生活の中で算数を活用し、自分なりの疑問を解決する。 ○自分の苦手な問題の克服し、自信をもって新しい問題に挑戦する。	①基礎的な学習におけるプリント学習やタブレット端末を活用 ②思いや考えを文にし、言葉にする学習を意図的に実施 ③ペア学習や小集団学習の充実 ④国語の授業だけではなく、学級会や委員会活動などの特別活動で、合意形成の仕方などの指導を実施 ⑤ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実 ⑥長さ、体積、面積、時間、重さ、角度等の測定の時間の確保 ⑦毎時間の「ふりかえり」の実施 ⑧間違えても再度解き直させるなど再挑戦する時間の確保 ⑨国語辞典や漢字辞典を活用し言葉の獲得を目指す

			⑩5W1Hや、文型を意識した書きかたの練習を行う
6 学 年	・国語科では、新宿区学力定着度調査の「書くこと」が区平均より下回っており、文章を書く力に課題がある。 ・算数科では、区学力調査の「数と計算」が区平均より下回っており、正しく計算をする力を身に着ける必要がある。 ・全国学力学習状況調査の国語科記述式の問題が都平均、全国平均を下回っていることから自分の考えを文章で書く力を育成する必要がある。 ・全国学力学習状況調査の算数科の「図形」が都平均を下回っていることから、図形の性質を根拠に考えを説明する力をつける必要がある。	○鉛筆をもって書く機会を増やしていく。 ○特別活動等で、文書作成をする際に、タブレット端末での作成のみに頼らない。 ○算数科の前学年までの知識・技能を使って問題を解くことができる。 ○具体物操作や測定、作図などの算数的活動を通して、量や図形の感覚を身に付けている。 ○解き方や考え方を伝えあう活動を通して、自分なりの理解や考えを獲得する。 ○自分の苦手な問題を克服し、自信をもって新しい問題に挑戦する。 ○生活の中で算数を活用し、自分なりの疑問を解決する。 ○記述式の中でも条件がある記述式問題で、条件に正対していないケースが多く見られたので、条件付きの記述に慣れることができるようにする。 ○具体物の操作することで図形の性質について想像しやすくすることができるようにする。	①朝学習でミニ作文等の学習活動を実施 ②自主学習ノートを使って、日記や学習した内容を家庭でも書く機会の設定 ③国語の授業だけではなく、学級会や委員会活動などの特別活動で、合意形成の仕方などの指導を実施 ④小数や分数の計算の復習 ⑤わり算の筆算、かけ算の筆算の反復練習 ⑥長さ、体積、面積、時間、重さ、角度等の測定の時間の確保 ⑦ブロックや立体などの具体物操作や作図などの算数的活動の充実 ⑧ペア学習や小集団活動の充実 ⑨毎時間の「ふりかえり」の実施 ⑩自分なりの課題解決の時間を確保 ⑪2週に一回程度、家庭学習ノートで条件を付けた課題を課す ⑫図形の学習につながるような日常生活で使う物を学習に活用する
特 別 支 援 学 級		○教師の話を集中して聞き取り、発達段階に応じて内容を理解し行動することができる。 ○課題に集中して取り組み、最後までやり遂げさせる。 ○自分の思いや考えを言葉やジェスチャーなどで伝えることができる。 ○発達段階に応じた数の概念や計算方法を理解することができる。	①教室環境を整備し、必要に応じて個の声かけ ②子供の実態に応じた学習グループの編成 ③一人一人の興味・関心や発達段階に応じた課題の設定 ④多様な表現活動体験の実施 ⑤考えを友達と共有する場の設定 ⑥安心して自分を表現できる学級の雰囲気作り ⑦視覚や感覚に訴える教材の作成 ⑧スモールステップでできることの積み上げ ⑨タブレット端末を活用した個別最適な学習